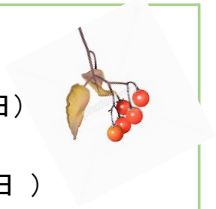
みんなで育てよう、緑豊かな私たちの森！子ども達に贈る自然いっぱいの森

能ヶ谷西緑地だより

2023年 10月 1 日号 283号　能ヶ谷西緑地・樹の会

【10月の予定】



◆10月14日　（ 土 ）　（ 雨天翌日）
　・花広場草刈り
◆10月28日　（ 土 ）　（ 雨天翌日 ）
　・小田急住宅下草刈り
　＊ 9:00　現地集合　（ 9：00～ 11：30）
◆10月7日　（ 土 ）　（10：00～12：00）
　・ヤママユ連・手作りカフェー
　平和台集会所

問合せ　：　伊藤　（735-8623）
どなたでも参加自由です。
作業には汚れても良い服装でおいでください。

【緑地に咲く】ツユクサ（露草）

ツユクサ科ツユクサ属の一年生植物。鮮やかな青い花が印象的。朝露がよく似合い、葉が露を弾く姿も花の愛らしさも、夏の暑さを和らげるような涼しげな花です。
朝咲いて昼にはしぼむ儚い様子から、万葉集にも恋の歌で登場します。

（長谷部）

※※※※※※　**緑地だより**　※※※※※※

9月10日（日）　晴　参加者6名

今朝の様子だと、これから強い日差しになりそうな気配だ。今日の作業は桜広場の整備だ。久しぶりの広場は、草木も夏の太陽に負けないで元気にうっそうと茂っている。道路沿いのフェンスから反りだして大きくなったカラムシの茎を刈るが、かなり強い。フェンスにクルクルとからまった、ヘクソカズラ（別名さおとめかずら、やいとばな）のつるもつかみ取る。
住宅に近い竹も伐採した。竹の根元から三節くらいの長さに切った竹を使い、竹の枝払いをした。枝の根元をその竹で力を入れて振り下ろすと、ナタやノコを使うより安全で簡単に竹枝が取れる。これにはびっくりした。

センニチコウ

作業を終えて歓談していると、上からミズキの実がシュッ、パラッとあちらこちらに降ってきた。この実は、鳥たちがついばむそうだ。おもしろい自然の様子に疲れも癒される。

（森田）

9月23日（土）　曇・小雨　参加者6名

今日は初め小雨が降っていましたが、それでも6人の方が集まりました。作業をしているうちに、やんでしまいましたが。作業は花広場の草刈りをして、散歩する方が歩きやすいように気を使いました。また中央広場では栗が落ちていて、栗拾いをしましたが、多くは崖下に落ちていて、残念。
終了後、先日亡くなったHさんの思い出を語り合い、10月に鶴２小で「樹の会」の話をする相談などをしていると、子どもが3人遊びに来てくれて、急に皆さん活気づきました。子どもがいるって、良いことですね！

（小川）

キノコも出てきました

【緑地の樹】

サザンカ（山茶花）

ツバキ科ツバキ属の常緑広葉樹

中央広場に真っ白な花を咲かせる山茶花が2本、並んで植えられている。1本は移植による環境の変化とカイガラムシの被害を受けて半分ほどに切られ、寂しい姿になっているが、それでもひと夏すぎて緑の葉が伸びてきている。

9月11日に逝去されたHさんが自宅の庭で育てた山茶花を移植したものだ。15年程前、高さ50センチほどの細い苗木を花広場の隅に植えてみた。日当たりが良かったせいか、どんどん育って２m余りになり、毎年沢山の純白の花を付け、みんなの目を楽しませてくれたのだが、その場所が狭くなってしまい、3年前に中央広場に移植した。

Hさんは、信州高遠城で有名な「コヒガンサクラ」の苗木やヤマシャクヤクの苗も緑地に植えて下さった。白い花が好きだった。オオヤマレンゲやセツブンソウなど、蕾の時にぷっくりと丸っぽい花がとりわけお好きだった。

御岳山でレンゲショウマを見ながらお弁当を頂いている時、Hさんが言った「あ～、しあわせ！」。幸せとは、日常のほんの小さな所にも潜んでいるのだと、私は教えられた。

木陰で花数も減り、虫の被害にもあった2本の山茶花、どうぞ微笑むような白い花を咲かせてください。　（かつた）

【やままゆ連・手作りカフェー】

真綿の糸よりと紙箱織り

9月2日（土）　10：00～12：00　平和台集会所

この日は残暑が厳しい中にも、少し秋の気配が感じられる日でした。

参加者はスピンドルを使って真綿を糸に紡ぐ作業と、紡いだ糸を箱を使って織る作業とに分かれました。

私は再びスピンドルに挑戦したのですが、なかなか思うように紡げません。ベテランのKさんがやって見せてくれると、見事にきれいな糸が紡がれていきます。悪戦苦闘しながら、それでも絹の美しさ、しなやかさをしっかり感じながらのひと時でした。

11月に鶴川第二小学校でヤママユの糸を紡いで見せるそうで、子どもたちの喜ぶ顔が目に浮かびます。

紙箱織は紙箱の両端に7mm間隔で刻み目を入れ、縦糸を張ります。横糸に、紡いだ真綿の糸などを通していきます。織機の原型といえるものでしょう。織っている人が織姫に見えました。

やままゆカフェ：新栗と新サツマの茶巾、栗のパイ皮包み　（斎藤好子）

スピンドルと織物

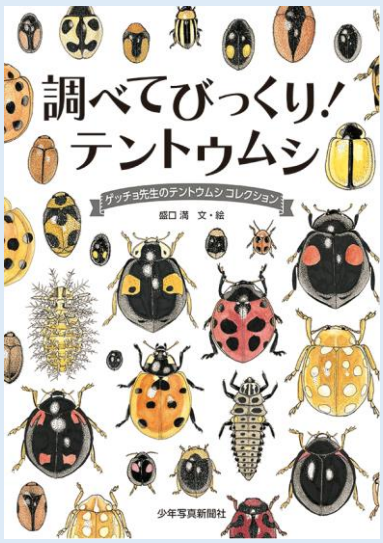
紙箱織機

【緑地を楽しむ本】

『調べてびっくり！テントウムシ』

盛口　満　文・絵

少年写真新聞社



表紙をあけると、いきなりナミテントウの越冬集団の写真。148匹いるその集団でおおまかに分けられる4種類の模様、二紋型、四紋型、斑型、紅型の割合を数えてみる。そして「もしもテントウムシの集団を見つけたら、この結果と比べてみましょう」と、見ているこちらをギュッとリアルな体験へと引っぱってくれるような気にさせてくれる。

ページをめくっていくと、これでもかというほどのテントウムシ、テントウムシ・・・。同じナミテントウの中にも星の数というか模様のちがうものがこんなにいるのかとビックリ。見開きいっぱいのテントウムシ独特のさまざまな幼虫やサナギの絵も、完全変態ならではの迫力だ。

草食、そして菌食のテントウムシの紹介などもあり、もちろん他の虫も多数登場。

～緑地で探してみましょうか～

（遠藤）

野菜とその原種

畑の大豆

ツルマメ

よく似ていますね～
大豆の原種のツルマメは蔓性でほかの植物に巻き付いていますが、
大豆のほうは直立しています。実を比べてみたいですね。

◆ 緑地内は自然緑地として保全をしています。
怪我しないよう十分に気をつけて楽しんでください。

◆ ご意見がありましたらnishiryokuchi@gmail.com まで

「緑地だより」編集：小川

「能ヶ谷西緑地・樹の会」のHP（毎月末に更新）
http://home.a03.itscom.net/ryokuchi/
配信希望の方は、nishiryokuchi@gmail.com まで